

日本が満天の星空になる日を迎えるために

沖縄県庁 長浜 麻紀子

小島ブンゴード 孝子 様

拝啓

遠くデンマークより、距離を感じさせない楽しさに溢れた講義をありがとうございました。孝子先生のお顔に、穏やかな中にもキラキラ光るパワーを感じ、正に「自分の人生を生きている」方だなと羨望の眼差しで拝見しておりました。

行政にいと、よく「好事例を横展開せよ」とのミッションが国より降りてきます。そして、県は同じように市町村に伝達したりするわけなのですが、それがなかなか横展開していきません。それもそのはず、一枚のポンチ絵でいくら取組項目と結果を示したところで、そこにはプロセスが欠けているのですから。

取り組むことは同じでも、それを実行する人やその土地の背景は違うわけですから、同じプロセスを経ることは稀なはずで、そこを、プロセスを経ずに結果を求めることが間違っていたのだなと改めて思い知らされました。

教育ひとつをとっても、日本は「結果」を重視しすぎてしまっていたのではないか。結果に辿り着くことに急ぎ過ぎてしまっていたのではないか、その過程において一方的な詰め込みではなく、(腑に落ちるような)対話による理解をもっと大切にすべきではなかったのか。そうすればイジメ問題のようなことも起こらないのではないか。

デモクラシーとは何なのか(デモクラシー≠多数決ではないという話には衝撃を受けました。)、平等であるということは何なのかといった根本的な基礎を固め直さなければ立ち行かなくなってしまうのではないか。様々な懐疑が生まれ焦りも感じました。

だけど、ふと冷静に考えると、デンマークの社会に根付いている「対話」や「信頼と連帯」、「個と社会のバランス」「多様性の中の平等」といった価値観や思想はこれまでの歴史を経てつくられたものであり、やはりそういったプロセスを経ないと成し得ないものだと思いました。これまでと同じように結果ばかりを求めて焦っていても仕方ない。

そして、孝子さんが語ってくださった「日本にはキラキラ光るものはたくさんある」という言葉が救いになりました。キラキラ光る点を線にできないのは、ただただ光にフォーカスしてしまっていたから。もっと、「なぜ光るのか」「どうしてそんな色で光るのか」、そして「自分だったらどうやって光るのか」

地に足つけて考えていけば、点を線に、線を面にしていくことができるのではないかなと思うことができました。日本にだって優れていることはたくさんあるのだから。

確かに崖っぷちの日本ですが、それでもゲームは未だ終わっていない。日本が満天の星空となり、逆転ホームランを打つ日が来ることを思い描いて、自分なりに地道な自問自答と他者との対話を積み重ねていこうと思いました。素敵な時間をありがとうございました。

敬具

令和6年5月4日

追伸 孝子さんの7回裏のマウンド、心より応援しております